

《報道参考資料》

乳幼児親子向けのあそび環境の整備を通じて、地域活性化を促進 千葉県柏市と「ソトアソビ運営事業」に関する業務委託契約を締結し、 子育て支援イベント「親子でソトアソビ」第一回を開催しました

子どもの健やかな成長に寄与することを目的に、教育玩具・遊具の輸入・開発・販売とあそび場づくりを行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、2021年6月21日に、千葉県柏市と「柏市ソトアソビ運営事業業務委託契約」を締結しました。また当契約に基づき、7月20日、柏市と協業し、乳幼児向けのあそびイベント「ソトアソビ」の第一回を開催いたしました。この度10月27日には、第二回を開催予定です。

あそび環境づくりが、子育て世代の課題解決に — 自治体と協業したあそび場開発を推進

昨今、公園の遊具撤去・あそび制限などが進み、子どもが存分に体を動かして遊べる環境が減少していることから、子どもの体力やコミュニケーション能力の低下が危惧されています。こうした課題を解決すべく、当社は2004年より、“こころ・頭・からだ”のすべてを使い、親子で一緒にあそびが楽しめる屋内あそび場「キドキド」の開発・運営を全国17か所を進め、年間約200万人以上の親子にご来場いただいています。「キドキド」は、“走る・回る・跳ぶ”などの多様な体の動きができるよう設計されたアクティブエリアと、創造あそびに集中して取り組めるエリアが一体となっています。また、常駐する「プレイリーダー」が子どもの発達や興味に合わせたあそびを提案し、親子のあそびの発展をサポートします。



当社は自治体と協業して、これまで全国50カ所以上にキドキドで培ったノウハウを活用したあそび環境の開発や運営を行ってまいりました。これらの施設は、子育て中の親と子に加え、幅広い世代の方々が交流するきっかけを創出する、地域のコミュニケーションのハブとして機能しています。子育て中の親の孤立化を防ぐことや、地域活性化につながったと評価されており、近年、自治体とのあそび環境づくりの事例が各地で増えています。

千葉県柏市と協業 — 「子育ての孤立化」の解消に向け、あそび環境整備によるコミュニティづくりを創出

千葉県柏市は、大型商業施設や飲食店、娯楽施設等が充実し、都心へのアクセスも良いことから、住みたい街として人気が高まり、特に若い子育て世代の転入が続いています。このため、教育・保育施設の整備や、地域と行政が連携した子育て施策の充実化などを推進し、一方で子育ての孤立化を防ぐ施策に取り組んできました。さらに、2020年には、「第二期柏市子ども・子育て支援事業計画」を策定。これまでの取り組みを土台として、市内の公園や公共施設等で主に0~2歳の乳幼児親子向けの子育て支援イベント「親子でソトアソビ」を実施することとしました。

その中で、当社のあそび環境づくりの実績やプレイリーダーの活動を評価いただき、2021年3月10日に、市が公園で行っている子育て支援のあそびイベント「ふれあい親子広場わいわい」に、実証実験として遊具やあそびのプログラムを提供する形で当社が参画し、参加者・市担当者から好評の声をいただきました。

これを経て、2021年6月21日に「柏市ソトアソビ運営事業」に関する業務委託契約を締結しました。本契約に基づき、当社はあそび環境の開発・運営のノウハウを活用し、乳幼児とその親向けに、市と協力して公園や公共施設など家の外で遊べる環境を2022年3月までの期間、年5回程度にわたり提供します。具体的には、当社の遊具を取り揃えたあそび環境を用意し、家ではできないあそびを提供して、外遊びを楽しむきっかけを作ります。また、これらのあそび環境には当社のプレイリーダーも常駐し、子どもの「やってみたい」という意欲を引き出して子ども同士のあそびを促し、それによって親同士の交流機会を生み出すことを担います。

地域の子育て支援イベント「ソトアソビ」を開催！ 今後も年5回程度のプログラム実施を予定



2021年7月20日に、0~2歳の乳幼児親子向けの子育て支援イベント「親子でソトアソビ」の第一回を、柏市と協働し開催しました。円形の透明な遊具の中で360度の回転遊びが楽しめる「サイバーホイール」や、トランポリンなどの遊具を使った、跳ぶ・転がる・ハイハイなど多様な身体の動かし方を促すあそびのプログラムを実施。40組の定員を大きく越える100組超の応募をいただきました。参加者からは「久しぶりに子どもが思いきり汗をかいて楽しんでいる姿が見れてよかった」「プレイリーダーに家での遊び方もアドバイスをもらって参考になった」「親子でとても楽しめた。身体を動かす機会がないのでまた参加したい」「赤ちゃん同士で遊ぶことが少なく、はじめて見る反応もあった」など様々な声をいただきました。また、子ども同士と一緒に遊ぶ中で、自然と親の交流につながっていく場面も見られました。柏市の担当者からは、「行政だけで活動するにははできることに限界があった。今回の協働したイベントでは、プレイリーダーやダイナミックな遊具で、より親子が楽しめるあそび場を提供できた。今後も参加者同士の交流が生まれる活動を行っていきたい」との声をいただきました。

今後、子育ての孤立化を防ぐコミュニティづくりの促進に向け、ポーネルドのプレイリーダー・遊具を活用し、柏市と連携した年5回程度の子育て支援プログラムを実施予定です。10月27日には、第二回目となる「親子でソトアソビ」のイベントを開催いたします。当社は引き続き、様々な自治体と協力して、あそびを起点とした地域活性化の取り組みを行ってまいります。

第二回 10月27日(水)開催「親子でソトアソビ with ポーネルド」概要

【日時】10月27日(水) ①10:00~11:30 ②13:30~15:00

※雨天中止

【対象】0~2歳の乳幼児と保護者 各回25組(予約制)

【場所】中原ふれあい防災公園(柏市中原1丁目先)

【内容】屋外の広い芝生エリアに、親子のからだ遊びを促す大型遊具とプレイリーダーが登場。跳んだり、転がったり、ハイハイしたり、硬い床とは違った心地よい刺激を感じながら、身体を思いきり動かして遊びます。

【はぐはぐ柏HP】 <https://www.city.kashiwa.lg.jp/haguhagu/index.html>



自治体と協業したあそび環境整備の事例について

● 京都府京都市:「京都市交流促進・まちづくりプラザ」(2020年9月オープン)



京都市は、阪急電鉄とともに、阪急洛西口駅～桂駅間の線路の高架化事業により生み出される空間を活用し、西京区エリア全体の活性化を目指す「洛西口～桂駅間プロジェクト」に取り組んでいます。同プロジェクトの一環として、豊かで活力ある地域社会の形成を目指す「京都市交流促進・まちづくりプラザ」を、市と当社が協働して開発しました。2024年3月末まで当社が指定管理者となり、京都市や地元のNPOと協力しながら、市民の交流や子育て支援、イベントや講座を当施設で企画実施し、あそびで人と人、さらに人とまちをつなぐ取り組みを推進しています。オープン以来、半年でのべ約2万人の市民に利用されています。

● 岡山県瀬戸内市:「瀬戸内市子どもひろばパートナー協定」(2020年8月締結)



岡山県瀬戸内市は、子どもが遊べる場を増やしてほしいという市民の声に応え、豊かな自然を活用して、市内全域で外遊びができる環境を創出する「瀬戸内市子どもひろば推進事業」を進めています。この取り組みの中で、当社と「瀬戸内市子どもひろばパートナー協定」を2020年8月28日に締結。市と協業し、地域に点在するあそび場の整備や遊具の導入、移動あそび場「プレーカー」事業の立ち上げ、市内各地で外遊びを楽しめる施策、あそびの指導者を養成する研修会などを行っています。

【ボーンランドについて】

ボーンランドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国64ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万5千ヶ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる屋内あそび場「キドキド」事業をスタートし、現在では全国17ヶ所、年間約200万人、さらに「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の屋内あそび場を含めると全国約50ヶ所、年間350万人以上の親子が訪れています。

【プレイリーダーについて】

ボーンランドのあそび場に常駐するプレイリーダーは、指導者ではなく、あそびが生まれるきっかけをつくる人。決まった遊び方を指示するのではなく、「こころ・頭・からだ」の成長につながるあそびを創出します。子どもの「おもしろそう」「やってみよう」という興味や関心、好奇心を喚起し、あそびの可能性を広げていきます。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーンランド 広報部 担当: 西山、村上
TEL: 03-5785-0860、080-5901-3591
e-mail: public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーンランド
TEL: 0120-358-518 (月～金 10:00～17:00)